

## 2018-2019

### 第4回複合地区YCE委員長連絡会議要録

◎日時：2019年5月14日(火)14:00-16:45

◎場所：一般社団法人 日本ライオンズ（東京都 八重洲）

◎出席者：

330 複合地区YCE委員長	河合 悦子（世話人）
331 複合地区YCE委員長	柳沢 豊
332 複合地区YCE委員長	今野 交（副世話人）
333 複合地区YCE委員長	小吹 勇
334 複合地区YCE委員長	横山 篤司（副世話人）
335 複合地区YCE委員長	植谷 晃一
336 複合地区YCE委員長	橋本 充好
337 複合地区YCE委員長	輪木 寛信
<u>オブザーバー</u>	
333 複合地区ガバナー協議会議長	藤川 清幸
334-D地区ガバナー	宇波 真一郎（欠席）
335-D地区ガバナー	小林 聡（欠席）
336-A地区ガバナー	関野 邦夫（欠席）
333 複合地区YCE特別委員	大久保 雄司

◎議事：

会議に先立ち、河合世話人より、「今回の会議が今期最後の会議となりますが、夏期の派遣、受け入れがありこれからが重要でありますのでよろしくお願ひいたします。」また派遣生の渡航費用の問題につきましては来期以降も継続して審議をお願いしたい、また今期一年の活動に対しての各委員長、(一)日本ライオンズYCE委員会所属(オブザーバー)の議長、ガバナー各位に対し感謝申し上げる旨挨拶があり。横山副世話人による議事進行、今野副世話人による議要録作成担当とし、その後各出席者より自己紹介有り。

#### 1. 夏期交換

##### (A) 派遣生

###### (1) 最新派遣人数の確認

別紙1の通り各地区から詳細説明有り、確認した。

###### (2) 各変更(追加、取消、行き先変更、遅れ出発について)

別紙2の通り最新変更を確認した。

###### (3) 各窓口からの出発前連絡事項

別紙3の通り確認された。

###### (4) リーダー・サブリーダーリスト

別紙4の通り最新リストを確認した。

##### (B) 来日生

###### (1) 来日生人数

別紙5の通り最新の来日人数一覧が確認された。

## (2) 来日生情報

別紙6の最新情報およびキャンプ情報が確認された。

## 2. 申し送り事項について

事前に実施されたアンケート結果が確認され、(一) 日本ライオンズウェブサイトへのYCEウェブページ設置、オリンピックイヤーの交換、YCE事業参加クラブ増加への対策などを中心に意見交換がされ、以下の意見発表があり。

330 複合地区： 受入れについてメール連絡、詳細のやり取りがスムーズにいかないことが多く改善が必要と思われる。

331 複合地区： アメリカなど受入れ生の情報が遅く、対応に苦勞するときがある。受け入れホストファミリーがぎりぎりまで決まらず苦勞が多いが、派遣生が満足して帰国している姿を見ることが多い。派遣生オリエンテーションの開催回数も地区により開催回数が異なることがわかり、参考になった。

332 複合地区： 派遣先としてどうしてもヨーロッパエリアが人気で派遣生を選抜しなければならぬ場合が多く、是非ヨーロッパ枠を増やしてもらいたく、受け入れも積極的に行いたい。台湾は受入れホストファミリーは決まりやすいが、派遣生に人気は今一つ広報不足なのか少ない、今後の課題としたい。

333 複合地区： 地区に特別委員会を作り、より継続活動がしやすく派遣、受入れの実務を継続担当しており、委員長が一年で変わっても実務に影響が出にくく、多くの派遣、受入れが可能となっている。

334 複合地区： 毎年ヨーロッパフォーラムに参加し、おおよその派遣、受け入れ生の人数を確保している。各地区からヨーロッパ派遣生枠の拡大要望が多いのは承知しているが、やはり受入れ生のスムーズなホストファミリー決定が派遣生枠増につながるので継続して各地区の皆様にご協力をお願いしたい。またヨーロッパ派遣は人気があり、各MDにヨーロッパフォーラムより事前に受入れ人数、派遣希望人数のアンケートを取る提案がMD334から有り、本会議参加者の賛同が得られた。

335 複合地区： マレーシアとの交流が順調で、受入れホストファミリーも確保しやすく、派遣生増員は可能。オセアニア地区は受け入れ態勢があまり良い状況とは言えず、最近はむしろカナダエリアが充実してきている。335-B地区においては43年間30人規模のキャンプを開催している。

336 複合地区： 台湾の受入れの送迎を旅行会社に手配し、従来よりコストが抑えられた。

337 複合地区： 地区にて予算をある程度上げてキャンプの企画をしており派遣生のOB,OGも参加型のものにして行きたい。今回当地区からのウイソコンシンへの派遣生に障害のある学生がおり、同行派遣生のサポート及び現地との交渉によりホストファミリーも快く受け入れていただき、今後の参考モデルとされることを期待したい。

藤川議長： 派遣費用の金額を今後継続的に下げる方法を検討されたい。派遣生には観光ではない旨の指導をお願いしたい。またウェブサイトについては現在日本レベルでプロジェクトチームを作り作業を進めており、YCE事業のページの追加も検討される予定である。海外からのアクセスアプローチ対応に役立てば、なおよろしいかと思われる。YCE委員会からも要望すればなお実効性があると思われる。

河合世話人： ホストファミリーの確保が近々の問題である。また、YCE活動を各地区に継続してPR願いたい。委員長同士のつながり、関わりを密にしていきたい。

オリンピックイヤーのYCE事業： 今だ未定の部分が多く、各地区で苦勞しているが、国内外移動問題、料金問題、キャンプ問題等々、状況を見て対応することを次期に申し送る。

ホストファミリーの確保： 各地区苦勞しているが、各種団体や公的機関への広報も有効とのこと。やはり派遣生を出した場合は、同数の受け入れもセットで考えることが望ましい。

以上